

## 営業スキル向上勉強(#37)

2017年8月25日

書籍タイトル : 東大生が知っている！努力を結果に結びつける 17 のルール

今回この本を読んだ目的、きっかけ：

学生の時に一度は誰もが考えたり、憧れたりするだろう東大、そこに入ったり一握りの人が知っている「努力を結果に結びつける」方法なら本物だと思い、手に取った。

頑張った分だけ結果を出せるなら是非実践したい。

概要：

早速だが、どうして「勉強」って面白くないのだろうか(人によって違うかもしれない)。

「勉強」と聞くと「嫌なイメージ」を持つ方もいると思う。

この著書は著者がどうにかして、その「勉強」を面白くしたいと思って本を書き続けてきて、集大成として執筆したそうだ。この著書に書かれている勉強法を実践することで、勉強を楽しいモノへと変えることができるだろう。そして、どんなに一生懸命努力しても、やり方を間違えていれば結果にはつながらない。これは、勉強も仕事も同じだ。

著者が大学受験、東大での学生生活、そして、塾の経営を通して学んだ、努力を結果に結びつけるルールを吸収し、勉強と仕事に活かそう。

参考にしたい点、気になる点

### 1. 「やるしかない状況をあえてつくる」

著者は、学生の時生徒会副会長に立候補した。立候補後、選挙をするのは知っていると思うが、その公約として、10年以上前から実現できていない、当時学校に指定されていた指定かばんを撤廃する「指定かばんの自由化」を発表したそうだ。その結果、著者は無事に生徒会副会長に就任した。

しかし、先ほどの公約は思い付きで、しかも生徒会副会長にも親の気を引きたい一心で立候補しただけで、当選後のことを考えていなかったそうだ。

ダメだったら、親どころの話ではない。学校全体から「口先だけの水かぶり男」として笑いものにされる。

「これでやらなきゃ詐欺だよな…」

選挙という1ヶ月の短期決戦を終え、次の決戦は1年間。腹をくくったら、少しずつやる気が出てきたそうだ。

どうなったかについては著書を手にとってほしいが、つまり何が言いたいかというと、『退路を断つと、やる気が出る』ということだ。

別の著書を読んだ時も、「言ってしまうとどうにかなる」ということが書いてあった。自分だけだと怠けてしまうこともあるだろう。ここぞというときには、外的な要因を利用して自分を追い込むことも必要だろう。

## 2. 「反応がいい人間は愛される」

突然だが、「メンター」という言葉を知っているだろうか。

メンターとは、日本語でいえば「師匠」「恩師」などの言葉にあたる。「人生の選択で困った時に、ヒントをくれる人」である。

著者は、塾で毎日たくさんの生徒に接している。そして正社員 12 名とアルバイト 20 名の計 32 名の部下と接している。生徒や社員には、出来る限り「公平に」接したいと心掛けているそうだが、教育者である以前に人間なので、**ついつい目をかけてしまう人が出てきてしまう**そうだと。「そんな人はどんな特徴を持っているんだろう」と不思議に思って、考えたことがあるらしい。

結論は、「**反応がいい人**」だ。生徒でも、社員でも、「**反応がいい人**」が可愛い。ついつい目をかけたくなくなってしまうのだ。

では、「**反応がいい人**」とは具体的にどんな人なのだろうか。

例えば、生徒。こんな 3 拍子が揃っている子だ。

- ①授業中にうなずきながら聞いてくれる
- ②「これ、やるといいよ」と課題を与えると、すぐに取り組んでくれる
- ③「次、何をやればいいですか」と意欲的である。

続いて、社員でいえば、こんな 3 拍子をそろえている人だ。

- ①アドバイスを楽しそうに聞いている
- ②本をすすめると、すぐに読んで返してくれる
- ③頼んだ仕事を取り急ぎ「超特急」で仕上げしてくれる

## 3. 「本を読む目的を決めてから読む」

実用書や専門書を読む時に、「なぜ、この本を読むのか」を明確にしておくのだ。

学生ならば課題レポートを書くためかもしれない。社会人であれば、スキルアップを求めているかもしれないし、プレゼン資料の根拠を探しているかもしれない。

**何を読むにしても、その本を読む目的を決めるのだ。**そして、そのために集中するのだ。例えば、著者の場合、教育系企業を経営しているので、「1. 教育学の新しい情報を得る」、「2. 自分の会社を強くする」もしくは「3. 教養をつけて視野を広げる」という **3 つの目的**で、実用書・専門書を選んでいくそうだと。

そのため、**すでに知っている知識は読み飛ばすし、今の自分の心に刺さらない箇所は読み飛ばす。**そもそも、どんなに集中して読んだとしても、1 冊あたり 30% くらいしか頭に残らないものだ。よって、「その 30% を探すんだ」という意識を持って読めば

いいのだ。

## 感想

この著書を読み、思ったことを一言…。

学生、出来れば中学生の時にこの著書を読みたかった。正直そう思ってしまったが、今からでもこの著書の内容を実践することで得るものは大きい。

特にジグザグ記憶法は今後の勉強の中にも活かせる。

本を読むときもどう読めばいいか、また、ただ読むのではなく感謝しながら読むことが大切だと分かった(なぜ大切かは著書を読んでほしい)。

これまでも、本の読み方についての著書をいくつか読んでいたが、本はその書き手の考え方、経験、時間が凝縮されたものだ。膨大な時間をかけて作ったものをたった数時間で自分のものにできるのだから、感謝するのは当然だということに気づいた。

これからの勉強にこの著書で学んだ勉強法、考え方を取り入れていきたい。